

夜の喜び

小川未明

青空文庫

私は、夜を讃美し、夜を怖れる。

青い、菜の葉に塩をふりかけて、^{しお}凋れて行く時の色合のような、黙つて、息を止めているような、匂いはないけれど、もしこれを求めたら、^{なまぐさ}腥い匂い、それも生々しい^{ちしお}血汐の流れている時分の臭いでなく、微かに、ずっと前に、古くからそこに残っている匂いがするような、青い月夜もある。

風もなく、雨も降らず、大空には星の光りも隠れて、しかも厚い鉄板を頭の上に張り詰めたような重苦しい、大きな音を立てても、音の通らないような、次第次第に、何等か大きな黒い楯が迫つて来て、息の音^ねを圧してしまいそうな闇の夜もある。

そして、この青白い月夜と黒色の闇の夜とは、私に性質の異つた恐怖を与えている。

「お繁^{しげ}さんも、この頃のように、ああ無駄^{むだ}目が見えるようになっては長くあるまい。」……とは、私の母がいった言葉である。

私は、家の前の戸口に立つて、青白い薄い帛^{きぬ}をこの世の上にかけたような、草木の葉の、色艶も失せて凋^しれてゐる景色を眺めた。思ひなしか、空の色もうるんで、張^はつてゐる糸の結び目がほぐれたように、不安な月の色は、病^{びようじよ}女の怨^{うら}めしげな、弱^{よわ}つた吐息を吹きかけて、力なく拭^{ぬぐ}つた鏡のように、底気味の悪い、淋^{さび}しいうちに、厭^{いと}らしい光りを落^おしてゐた。

こんな晩に夜鳥よがらすが啼くと、きつと人が死ぬんだと私は考えて、
どうかして鳥の啼かないようにと心に希こいねがつていた。お繁は三十三
四の瘦せた女の人である。もう、二三ヶ月前から心臓病で臥ねてい
るのであるが、この二三日はめつきり衰えて、近所の人々は寄れ
ば、その人の噂をしている。殊に、昨日今日は、医者も一日に二
三度ずつ来て、親類の人々も繁しげく出入りしている様子である。
私の家と、お繁さんの家とは僅わずかに圃はたけを一つ距へだてているばかり
で、その家の屋根が見える。窓に点ともっている燈火ともしびが見える。月
の光りは、圃に植えられている、繁たけつた、丈の低い野菜の葉の上
に流れて、お繁さんの屋根が、灰色にぼうとなつて浮き出ていた。
いつにない、赤々と点っている窓の障子に映った燈火は、私に、

何物かこの夜の中うちに起るべき異常な事件を予知しているように思われて、怪しく胸が躍おどるのを覚えた。

私は、かかる夜を讚美し、かかる夜を怖れる。

西の空が飴色に黄色く色彩いろどられて、曇った日は暮れかかっている。

音もない、外の黒い木立の姿が、尼さんの喪服を着て立っているように窓の内から見られた。色の青褪ひんめた、貧やつに窶ひんれた母親が娘の枕元に来た。じつと憂うれわしげに、眼を閉じている苦しげな娘の額ひたい際ぎわに手を当てて熱をはかつて見た。顔の色は曇うれって、憂うれわしげに見えたのが、一種の驚きの姿に変わった。そして、娘の顔

に顔を近よせて、

「お前もう、日が暮れるのだよ。夜中になってから、悪くなつてお医者様を迎いに行くようなことがあると、いけないから、今の内に迎えに行つて来ようか……。」

といった。そのふるえた、どこか臆病げな^{こわいろ}声色は、外に立っている黙つた尼さんのような木立にも聞えるように、窓の^{うちそと}内外には、厭らしい沈黙の他にこの様子を見守っているものがなかった。

「夜中になってから……。」この一言は、いかにも北国の淋しい、暗い、物凄い夜を言いふくめている。闇夜に、誰一人通らない田舎道を、曲りまがって、田の中や、五六本並木の立っている処や、

二三軒人家のある前を通つて、一里余り、もしくは二里も、ちよう提燈ちんの火を頼りにとぼとぼと町まで歩いて出かけなければならなかつた。——夜更けてから、波の音が聞える。

私は、かかる夜を讃美し、かかる夜を怖れる。

死は、人間の苦痛の極きよくてん点である。死より、もう悲しいものはないのである。私は、昼間の太陽の眩まぶしげに輝いているうちに、いろいろの物音や、賑にぎやかな声や、人々の姿や、動いている影や色彩いろどりで、悲しいこと、苦しいこともまぎれているが、夜になつてから、四辺あたりが静かになつて、人が寝静まつてしまうと、骨肉みうちのものや、知っている人の死にかかっている枕元に坐つて見守つ

ていると、刻々に襲い来る、不安と恐怖に怪しく胸の鼓動の高まるのを覚える。

私は、死は人間最終の悲しみであり、悲しみの極点は死である
と思い、いかなるものも死を免れぬという考えから、むしろ死に
懐^{なつ}き親しみたいという考えが生じた。

夜と、死と、暗黒と、青白い月とを友として、そんな怖れを喜
びにしたロマンチックの芸術を書きたいと思う。

青空文庫情報

底本：「文豪怪談傑作選 小川未明集 幽霊船」ちくま文庫、筑摩書房

2008（平成20）年8月10日第1刷発行

2010（平成22）年5月25日第2刷発行

底本の親本：「定本 小川未明小説全集6 評論・感想集」講談社

1979（昭和54）年10月6日第1刷発行

初出：「早稲田文學」

1911（明治44）年9月号

入力：門田裕志

校正：坂本真一

2016年6月10日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

夜の喜び

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>